2025 年 12 月 5 日（金） ハコラク１月号 掲載

ドクターコラム『糖尿病と肥満症、そして肥満症治療薬とは』

糖尿病・内分泌内科 小野 真佑子 医長

Doctor Column

糖尿病・内分泌内科

糖尿病と肥満症、そして肥満症治療薬とは?

昨今、いろいろなメディアで肥満症治療薬について目にすることがあるかもしれません。今回は糖尿病と肥満症の関係、そして肥満症の治療薬についてお話します。

まず、〝肥満〟とは、体に脂肪が過剰に蓄積した状態で、この状態に糖尿病や高血圧症、脂質異常症、脳梗塞、睡眠時無呼吸症候群などの健康障害を合併した場合に〝肥満症〟と診断されます。特にお腹回りの脂肪が増える内臓脂肪型肥満の場合、先述した健康障害を発症しやすいと言われています。

肥満を合併した2型糖尿病の場合、体重を減らすことで血糖値の改善を望める方も多く、糖尿病治療薬の中でも減量効果を期待できる薬剤が選択されることがあります。この薬剤の一部が、２０２４年２月より糖尿病を認めなくても、ある一定の基準を満たした肥満症患者さんに保険診療で使用できることになりました。この薬剤は、膵臓（すいぞう）に作用してインスリンの分泌を促進させ血糖値を低下させます。そして、脳の食欲中枢に働きかけて食欲を抑えたり、胃から食べ物を排出するスピードを遅らせたりすることで少ない食事量で満腹感と満足感を感じさせるような薬剤であり、適正に使用することで著明な体重の減少を認める方もいます。また食事療法のみでの減量は後々、リバウンドを起こすことが問題でしたが、この薬剤を併用することでリバウンドを生じにくくすることもできます。

一方、〝薬〟とは疾患や症状に対しある一定の効果をもたらしますが、副作用も持ち合わせています。実際に上記薬剤を保険診療で使用する際は、専門である医師の診察を受け、患者さんご自身がこの薬剤を使用する対象に当たるのか、そして患者さんご自身が薬の副作用までしっかり理解された上で使用するのか決めることが望ましいと考えます。

糖尿病の治療でも、肥満症の治療でも、食生活を整え、運動習慣を取り入れた上で適正な薬剤を導入して健康的な体作りを目指していきましょう。

函館中央病院
糖尿病・内分泌内科
小野　真佑子医長

略歴

平成２３年、埼玉医科大学卒業後、北海道大学病院、滝川市立病院、苫小牧市立病院、ＮＴＴ東日本札幌病院勤務を経て、令和3年、函館中央病院糖尿病・内分泌内科医長に就任。日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医。